

夜の旅と昇天 (3/6) : 昇天

:

明: 言者ムハンマドの天への旅。

目: [事イスラ ムの真 性を示す数々の ムハンマドの 言者性に する](#)

目: [事 言者ムハンマド彼の 言者性の](#)

より: ア イシャ ステイスィ

E09 Jul 2012

集日 09 Jul 2012



夜の旅と昇天は、神の 言者であるムハンマドへの大いなる祝福でした。それはマッカの マスジドから始まり、エルサレムのマスジド アル=アクサ に き、第七天における全能なる神の御前までの旅でした。 言者ムハンマドの旅に注 する中で特 すべき重要なこととしては、彼が れた 天は天国の一部ではないということです。

英 において、天国 (Heaven) という は一般的に永久なる精神的幸せや、 な人生のための 、そして永久の の である地 の とされますが、それは常にそうだったではありません。 Heavenという は地球上空の天体的な空を意味する古英 Heofonという から来たものです。アラビア においては、常に「サマ 」と「ジャンナ」の二つの が 々に使用されてきました。サマ は私たちの上にある空を指し、それは 判の日に ぼされる 世の一部ですが、「ジャンナ」という言 は、 、永久の祝福の 、 な信仰者の恒久的住 であり、地 の な

言者ムハンマドは全人の父であるアダムをたと述べています。彼はアダムに、ムスリムの挨拶である「アッサラ ム アライクム（あなたに平安あれ）」と言って挨拶しました。アダムは挨拶を返し、ムハンマドの言者性への信仰を明らかにしました。彼はムハンマドを息子、そして真の言者と呼びました。彼ら二人の出会いにおける喜びは想像をしたものだったでしょう。アダムは数千年の間に、彼の子の中でも最も大であるムハンマドと面したのです。ムハンマドは全人の父と相したのです。この奇はほんの始まりに過ぎませんでした。天使ガブリエルと言者ムハンマドは第二天へと昇りました。

そこで天使ガブリエルは再び入りの可を求めました。番が言者ムハンマドの使命について知ると、彼らは彼を迎え、をきました。そこで言者ムハンマドは（キリスト教において洗礼者として知られる）言者ヨハネと言者イエスという、いところ同士に出会いました。言者ムハンマドは二人と挨拶を交わしました。

言者ムハンマドと天使ガブリエルは第三天に昇りました。このでも同じようなやりとりが交わされ、番が天使ガブリエルと言者ムハンマドの使命について知ると、がけられたのです。この第三天で、言者ムハンマドはヨセフに出会いましたが、彼のことをあらゆる美の半分にすると表しています。

言者ムハンマドが天の各で言者たちと出会うたび、彼は彼らと挨拶を交わし、その言は常に、唯一なる神へ服する者たちによる平和の挨拶である「アッサラ ム アライクム」でした。言者ムハンマドは第四天において、神がクルアンの中（19: 57）でめて高い地位にあると述べる言者イドリスに、第五天ではモゼの兄弟である言者アロンに出会いました。それぞれの出会いにおいて、言者たちはムハンマドの言者性についての信を言っています。第六天で、言者ムハンマドはモゼと出会います。

言者モゼがクルアンの、または言者ムハンマドまで承の中で言及されるとき、何らかの重要なことについて述べられることが知られています。二人の言者が挨拶を交わし、言者モゼがムハンマドの言者性についての信を言すると、モゼは泣きはじめました。なぜ泣いているのかねられると、彼はこう答えています。「私のに若者がれ、彼の追者は私の追者よりも多くがに入るからだ。」

イスラ ムが到来するまで、言者モゼには 去の 言者の中でも最も多くの追 者がいました。モゼが泣いたことにより、私たちは 言者 には何らかのライバル心があったことを知ります。しかしそれは嫉 や 望に基づいたものではなく、思いやりに ちたものだったのです。この旅について み めると、私たちは 言者モゼによる 言者ムハンマドとその追 者への 情と思いやりについて知ることが出来ます。 言者ムハンマドと天使ガブリエルは 第七天に昇ります。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/1534>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。